

## まとめにかえて

前述の新潟日報記事を書いた記者が「子どもたちに不審者に対する注意ばかり強調しすぎると、大人への不信感をおおるだけともなりかねない」とかき、「気軽にあいさつを交わす地域には犯罪者は近づきにくい（大町小丸田校長の発言）」「地域の人が自分たちを助けられていることもあわせて教え、子どもたちの側からも積極的に地域とかかわっていけるようにしなければ…（竹尾小吉田校長）」のことがばで結んでいます。地域の共同体の再生の必要性を示唆する記事でした。

インタビュウの場になった議員控室での課長さんと杉本・樋口・橋爪議員のなごやかな雑談も学園・文化都市高田地区らしくて傾聴に値するお話しでした。

「子どもが一人にならないような通路を選んで通るでなく、一人になって登下校していても住民がどこからでも子どもを温かく見守っているという安全な通路が理想だよね」「この街は学校敷地内の遊歩道を住民も子どもも自由に歩ける。鍵や扉で締め切らないでいる。学校建て替えの時も設計時から住民が参加してそうした願いを生かしている」等々です。

私たちが未来を託す子どもたちにどんな地域を創ってゆくか、子どもたちから問われている問題でもあるのだということ深く気づかされた取材でした。

（ほんだとしひこ・研究所員）

## 長岡市・新組小学校

# 児童安全パトロールを 訪問しました

河合 靖久

○六年四月二十日の午後、県教育庁・保健体育課で紹介された、長岡市立新組小学校を訪問しました。

ちょうど、中学年の下校時間で、児童玄関は子どもたちでにぎわっておりました。職員通用口からインターフォンで教務室を呼び出し、私を見知っていた教頭さんが再施錠した玄関外で応対してくださいました。「安全」に対する手順を踏んだのでしよう。

会話の途中で、児童の見送りを済ませたららしい婦人が、自分の鍵で入ったので、校長先生だったのかと思

いました。

教頭の話で、印象的だったのは、昨年発足したパトロール隊の登録者は、無理なく自然に取り組める形で、長続きするように心がけている、児童数一七〇余名なのに、昨年同様一〇名を確保し、地域の関心が持続しているとのことでした。事務局は学校ですが、通学路はさんだ前の建物「新組コミュニティセンター」が、実質的な活動の拠点だということでした。

\* \* \*

コミュニティセンターに、主事の渡邊道雄さんを訪問しました。下校中の子どもたちにも話しかけましたが、素直で明るい返事がかえってきました。蛍光色のベストを着た方が、自転車で犬の散歩を兼ねたパトロールで往復する姿も拝見しました。

新組地区は、六九六世帯（二五七三人）が住んでおり、見附市との境界刈谷田川と接する農村地帯です。七つの集落が散在し、人家が途切れたり、積雪時に児童だけの歩行の心配もあります。上越線の踏切や新幹線高架橋、国道横断の地下道、高速道路のインターも近く、近年、車の交通量も増えています。

この地区は、明治時代には、開拓した先人達の名が

付いた「新田」や「村」も多く、用水路「福島江」の由来の福島村を含み、戊辰戦争戦跡の湿地「八丁沖」等、農民の苦闘の歴史が偲ばれる地域です。

中越地震直前の七・一三水害ではいったん避難した住民がさらなる増水で再避難を迫られ、二階の人々の救出に自衛隊のボートが直接コミュニティセンターの建物の中にまで入ったそうです。

以下、渡邊さんの話と頂いた資料でまとめました。

### パトロール隊の結成

児童安全パトロール隊結成の声かけは小学校校長より昨年一月の始めにコミュニティセンターに相談・要請され、以降、新組小学校、地区連合町内会、コミュニティセンター、後援会、老人クラブ、警察・駐在所等で話し合いを進め、三月には実施要項や予算、民間ボランティア募集等をまとめています。

平成一七年四月入学式・発会式後に各町内でパトロールを開始しています。

「子どもたちを守り、安心安全な町づくりを目指し」て一体となった防犯活動に努めているそうです。

先生方は、学校で教える、育てることに専念できる

よう、地域の人々が「地域の子どもたちを守ろう」との意気込みを感じました。

無理なく長期継続できる体制に

(一) 規約上の活動内容は次の三点ですが、募集要項にはボランティアの仕事として具体的に述べています。

(1) 通学路等の安全パトロール、防犯パトロール、  
ながらパトロール、危険箇所での立哨指導

(2) 通学路や地区内の危険箇所の一斉点検

(3) 児童の安全確保のための活動

(二) ボランティアには目立つベストと帽子が貸与され「ボランティア保険」に加入した上で、

① 子供たちの登校・下校時刻に合わせてパトロール  
します。(散歩を兼ねて)

② 子供の登校・下校時刻に合わせて、危険箇所(例、  
地下道入り口)で見守ります。

③ 自宅前、道路脇の畑等で仕事をしながら(例、草  
取り・水やり)子供たちを見守ります。

④ 不審な行動をする者を見かけたら、一一〇番通報  
や学校へ連絡をします。

⑤ 子どもたちに「おはよう」「こんにちは」などと、

積極的に声がけをします。

\* 日によって①②③の違う活動をしてもいいし、都合のつく日だけの活動でもいいです。

(三) 学校からは、毎月に行事と下校時刻の予定の一欄表を配布しています。

パトロール員は、七つの町内毎、登・下校時、活動記録簿に一口メモを記入し、月初めに各町内会長に提出し、それをコミュニティセンターでまとめ、学校から「パトロールだより」として配布されています。市内の不審者情報も掲載されています。

(四) 運営資金の初年度支出はPTAを主体に後援会、コミュニティセンター、防犯協会、交通安全協会等の協力費と市の補助金で賄います。三四万円の予算でした。

支出額の多い順に見ると蛍光反射ベスト、防犯帽子、立看板、パトロール保険等に使われていました。これら物資販売の業者は警察などの紹介もあったそうです。

自動車に磁石で付けるステッカーも「新組地区・安全安心」「パトロール中」と、表現にも地域の独自性と願いを込め、通し番号が小さく印刷されています。

した。

(五) 「無理なく、長続きする体制」としては、仕事や散歩をしながらでも肩肘を張らずに気楽に声がけなどができるようにしています。「発会式を子どもたちと一緒にやる様にし、この機会に互いに顔見知りになる」ことに努め「児童とパトロール員の心の交流」等も重視している様子が感じられました。地域活性化につながるきっかけがここにあると思いました。また「パトロール員がやりがいを感じ、活動が生活の一部となれば」の願いも強く感じました。

(六) 地域の安全・安心は、地域住民の連帯が何よりも大切だと思います。コミュニティセンターとしても、「各組織の掌握や役割が見えてきたことが良かった」とのことでした。

(七) 同センター二階に併設されている児童館(厚生員三名で四く五〇名に対応)からは、四時以降一階のセンターが不在になり、五時三〇分以降は厚生員も一人になるので「玄関の施錠や、インターフォンの設置を早急に検討して欲しい」との要望が出されました。実際の活動を通じ、さらに改善が図られることでしょうか。

\* \* \*

新組地区児童安全パトロールのこの取組みが、地域の中の世代を超えた交流でそれぞれのつながりを深め、「安全・安心」の輪が広がっていくことを願って訪問を切り上げました。

(かわい やすひさ・研究所員)

## 子どもの安全を守る地域の輪

新潟市・笹口小学校を訪ねて

小島 寿夫

新潟市立笹口小学校は生徒数三五七人、一三学級の学校である。新潟駅南の繁華街、通称けやき通りのつきあたりにある。歴史は古く一三五周年を迎える。駅南一帯の開発が進んで児童数が一二〇〇人を超え、九一年紫竹山小学校が分離した。街にはマンションが立ち並び、住民の八〇%近くは通勤族であり、まちづくりが大きな課題の地域である。